

# 令和4年度 第7回政策推進会議報告

日 時 7月28日 9時40分～10時55分

場 所 WEB会議室

出席者 18人

## 1 令和3年度企業会計決算の概要について

公営企業管理者から資料に基づき報告。(以下、質疑等)

- ・(都市整備局長) テレビでもボートレース場に若者が増えてきていると言われていたが、Moov あまがさきができたことなどで入場者の年齢構成が変わったということはあるか。尼崎センタープール前駅を利用される若者が増えてきているのであれば、都市整備局が進めているエリアブランディングの取組で、駅ごとの特性を出していく際の参考にしたいので、決算とは異なるが、そういったことがわかれば教えていただきたい。
- ・(公営企業管理者) 昨日の決算審査でもそういった質問が出ていた。Moov あまがさきは事前予約制のため利用者の住所や年齢などのデータを把握しており、比較的年齢の低い、幼い子どもを含むファミリー層の方が中心になっている。ボートレース場本場への入場者の年齢層は統計が取れておらず、私の肌感覚ではあるが、かなり若い人が増えている感じがある。YouTubeを見て電話投票されている方もおられ、それに刺激を受けて本場に行ってみようという方も増えているのではないかと感じている。次の戦略にも繋がってくるので、どういった統計が取れるのかということもこれから検討していきたい。
- ・(都市整備局長) 本場に行くと、私も肌感覚だが若い学生さんが増えていることにこの前気づき、お昼頃に舟券を買っておられた方に聞くと、競艇場に行ったあとに宝塚の仁川の競馬場にも行くということで、公営ギャンブルをはしごするという学生が7、8人おられて、そういう遊び方もあるのだなと思ったところである。
- ・(市長) 先日、久しぶりにSGレースが尼崎のボートレース場で開催され、コロナ急増中ということでネット予約のお客様のみ本場に入場いただけるという取組だったが、若い方が多かった。ネット予約であったことも1つの要因かもしれないが、何か雰囲気が違うというのはすごく感じた。電話投票が増えているということは、ネットで舟券を買っておられる層が増えているということなので、そういう方が本場にも足を運んでいただくようになると、自ずと客層が若返っていくのかなと思う。
- ・(資産統括局長) 8ページの5、利益処分案についての部分、3行目に30億6,000万円を一般会計へ繰り出す旨記載があるが、この30億6,000万円の活用用途については、9月補正で全額、公共施設整備保全基金に積み立てる予定としており、同基金については令和3年度末の残高で約69億円であるため、今回の積立で残高が約100億円となる。今後、令和5年度からの財政運営方針の中で見込まれる公共施設の予防保全や再編の取組においては多額の一般財源が必要となってくるため、そういったところにこの基金を充当できるよう、進めていきたいと考えている。

- ・(市長) 先日の会議でも話題になっていたと思うが、公園の一層の活用に向けてリニューアルしていく動きが出てきている中、目的別に特色を出していく取組もあり、そこにボートのお金が使われているということを示していくことで、より多くの方にボートの存在意義というか、お金の使われ方を示すこともできるのではないかと考えている。当然、予防保全第一で進めていくが、公園の取組のようなビルドの部分というか、市民の皆様への還元が実感できるような、そういったことも意識して取り組めたらと考えている。少し毛色が異なる話になるが、夏には「街路樹が伸びて信号が見えにくく危ない」といった意見が届くようになってくる。厳しい行革の中でそういったところを切り詰めてきたと思うのでバランスを取りながらにはなるが、市民の安全安心をしっかりと確保していくための予算措置と、ボート事業があるからこういう取組が進んでいるのということを市民の皆様が感じていただけるようなビルドの取組とをあわせて、意識しながら組み立てていけたらと思う。

## 2 その他

○危機管理安全局長から、令和4年度尼崎市防災総合訓練について説明。(以下、質疑等)

- ・(市長) 訓練参加団体の担当者には情報伝達システムは共有されているのか。
- ・(危機管理安全局長) 実施主体には基本的に共有されている。
- ・(市長) 普段からアプリを入れてもらっているかも確認できたらいい。
- ・(危機管理安全局長) 承知した。

○総合政策局長から、第5回尼崎市文化未来奨励賞の募集について説明。

○総合政策局長から、じんけんを考える市民のつどいの開催について説明。(以下、質疑等)

- ・(市長) オンライン参加は可能か。
- ・(総合政策局長) 現時点ではオンラインでの参加は想定していない。
- ・(市長) ネットの誹謗中傷をなくしたいというテーマでもあるので、やはりネットを使う方に広く見てもらう、共有してもらおう形がいいと思う。職員研修にも位置づけているが、コロナ禍であることを踏まえても会場だけでなく自席からオンラインで見られるようにするほか、定点カメラでもいいのでライブ配信や、事前申込者だけには録画配信の視聴を可とするなど、いろんなパターンが考えられ、講師との調整次第かと思うが、極力オンラインを活用することをスタンダードにした方がいいのではないかと考える。間に合うようであればご検討いただいて、今後は全局、極力オンラインと集合形式を併用して実施するようご検討いただきたい。

○こども青少年局長から、尼崎市児童相談所設置シンポジウムの開催について説明。(以下、質疑等)

- ・(市長) このシンポジウムには総務局の職員にもぜひ参加いただきたいと考えている。奈良の児童相談所にも視察に行ったが、弁護士採用の職員が準備段階から入っておられ、子どもたちの人権を守る取組を児童相談所でもやっていくということで取り組まれている。もともと児童相談所に弁護士は必置で、多くの場合、医者と同様に委託していろんな弁護士さんに来てもらう、人がどんどん入れ替わるタイプを採用しているところも多いと思うが、児童相談所に限らずこれからは弁護士採用を視野に入れていく時代なのかと感じている。これは例えば子どもの面会交流の場で、(弁護士が不在であれば) 場合によっては非弁行為になってしまう

うという課題も出てきているし、少し話がずれるが、都市整備局に来てくださっている警察OBの方が、 kannami 新地の取組を進めていくときなどに非常に良いアドバイスやお力添えをくださったように、分野を超えて専門の職員がいると取組の幅が広がるし、弁護士契約だけでは足りない分野が増えていると実感している。特にチャレンジングな取組をやっていくにあたって、できれば1人だけでなく複数の方に携わってもらえるのがいいのかなと思っており、弁護士会ではパブリック部門に携わりたい弁護士に向けた採用説明会やマッチングイベントなどを実施されているようで、まず私たちが懇意にしているところからご紹介いただくということもあり得るかもしれないが、児童相談所を1つの契機に、もし弁護士採用を考えていくのであれば準備段階から入っていただくのがいいかと思っているので、そういった観点から、こども青少年局だけでなく各局からご参加いただけると心強いと思っている。

○消防局長から、119番通報受付状況について説明。

○各局長から、au通信障害の影響について説明。(以下、質疑等)

- ・(森山副市長) 通信が本当にインフラになってきた中で、新しいタイプの災害だったと思っている。総務省では、緊急時には4大キャリアの中で他のキャリアに乗り換えられるようにする動きがあるが、やはり我々も通信障害が起きた際に、市民がどういう手段で市に連絡を取ることができるのかといったことをホームページ等でお知らせするなど、市としてどういったことができるのか、リスク管理を行う必要があるのではないかと感じた。
- ・(市長) いくつかこれからの取組に反映させるべき点があると思っており、森山副市長が言ってくくださったとおり、ホームページで情報発信をしていくにあたっては、AEDのある場所を掲載しているように、Wi-Fiスポットのある場所を管理しておく必要がある。通信障害のときでもWi-Fiが活着ているかもしれないということなので、民間のWi-Fiまで全て把握できれば一番いいが、少なくとも公共のWi-Fiについては把握しておくべきと思うが、これは危機管理安全局にやってもらうということではどうか。
- ・(危機管理安全局長) 承知した。
- ・(市長) AEDと同じように掲載しておくのが良いと思う。それに付随してだが、今多くの公共施設は職員が使用する行政事務支援システムと共用ということで市民が利用できるWi-Fiの使用が15分区切りになっているが、これは時代に合わないのではないか。公共施設におけるWi-Fi環境の強化がいろんな意味で必要ではないかと思っており、予算を伴うので施設の種類によって優先順位を付ける必要があるかもしれないが、来年度に向けて、利便性向上と危機管理という2つの意味で、必要な予算の計上を想定しておく必要があると感じている。学校施設についてもこれからは地域の拠点的な要素を持つていくことに加え、災害時には避難所にもなる。子どもたちのタブレット導入も進んでおり、学校施設におけるWi-Fi環境はこれまでの学校の観点だけでなく、地域と共用するという観点からも少し情報を整理し、強化が必要であれば充実を図るということも考えないといけないと、これは教育委員会にもお願いをしたいと思っている。

もう1個の柱はキャリアの複層化で、私たちが公用スマホを活用していこうというのが主流になっている中で、全てを同じキャリアにしまうと、こういった通信障害が起きた際にリスク分散ができないということが今回わかった。今回はたまたまauだったが、次は別

のキャリアで障害が発生するかもしれないし、業務内容によりけりで、緊急性の低い業務はそこまで神経質にならなくてもいいかもしれないが、キャリアは複層化しておくべきだと思う。災害時には防災無線を使っていくので、防災無線をもっと訓練に取り入れておこうとか、衛星電話を配備しているのでそういったところが錆びつかないようにしておくというのも今回の教訓の1つだったかと思う。公用スマホの管理は局ごとということなので、局ごとにリスク管理をしてもらうが、取りまとめは情報政策課で行うなど、そういう取組が必要ということは感じた。まずは各局でしっかり見直しをしてもらい、リスク管理ができていくかという働きかけ、グリップについては、危機管理安全局か総務局に行っていただきたい。

- ・(森山副市長) 今後調整する。
- ・(危機管理安全局) 防災無線については毎月1回、MCA訓練を実施している。また、衛星携帯電話など災害時に使う分は危機管理で把握しているが、公用スマホや公用携帯電話の全般的な把握はできていないので、今後調整させていただきたい。
- ・(市長) 公用スマホについては局ごとの契約が機動的で良い面もあると思うが、各局分のロットを寄せれば安く契約できるということもあると思うので、そういったところも含めて検討いただけたらと思うのでよろしくお願いします。

○消防局長から、第50回消防救助技術近畿地区指導会出場結果について説明。(以下、質疑等)

- ・(市長) すごい成績で大変誇らしく、頼もしく思う。全国大会ではぜひ練習の成果をしっかりと発揮していただいて、また報告をお願いします。市民の皆様にもぜひPRしていただきたい。
- ・(市長) 最後に1点コロナについて、1日あたりの件数が1,000件を超える状況で、直近では1,200件に届くという状況になっている。先般より会計年度任用職員を含めた応援体制を組むということで取り組んでいるが、派遣職員の確保もまだ予定通りできていない部分もあるということでもう一段、緊急の応援体制が必要なのかと認識しているがいかがか。
- ・(保健部長) 先週から会計年度職員の方も含めた局外からの応援職員10名と局内の職員10名、計20名で入力事務にあたり、何とか対応しているが、1日100件ペースで増えると、やはり人を1人ずつ増やしていく必要がある。基本的には派遣職員を募り少しずつ増やしているが、限度があるため、各局にも追加の応援を随時お願いしたいと思っている。
- ・(市長) 応援が必要になってから要請するのではなく、事前にリスト化しておき、リスト順に応援に出ていくという形をとっておくべきである。
- ・(総務局長) 応援に必要な人数が把握でき次第、各局に人数を割り振り、各局で順番を作っただいて速やかに応援を出していただく、そういった形を取っている。
- ・(市長) 刻々と対応が迫られているということで反射神経が必要な状況だが、ぜひとも対応をよろしくお願いいたします。もう1件、残念ながら職場でクラスターが出ている。家庭内感染を防ぐのは極めて難しいという変異株が流行していると思うが、同一職場でクラスターが発生すると業務への影響が避けられないと思うので、これまでも注意喚起してきたが、職場においてもとにかく濃厚接触者に当たらないような環境で仕事をするということはもう一度徹底しながら頑張っていきたいと思うので、改めての注意喚起をお願いしたい。

以上